生死を分けず認め合う社会を

法然上人800年大遠忌

法然共生フォーラム in 金沢

浄土宗が、宗祖法然上人の800年大遠忌（2011年）に先がけて展開する記念行事「法然共生フォーラムin金沢」（北國新聞社共催、京都新聞社後援）が11月2日、金沢市南町の北國新聞赤羽ホールで開かれた。「往生～死をめぐる共生」をテーマに、作家の青木新門さんら5人が出席。青木さんが、映画「おくりびと」の原案になった自分の著書「納棺夫日記」をもとに講演した後、京都大大学院教授の山極寿一さんらが死後の世界や、いのちのつながりなどについて討論した。フォーラムは、今回で4回目。語り部の平野啓子さんによる巧みな朗読「蜘蛛の糸」（芥川龍之介作）もあり、約400人の聴衆は極楽浄土や、死の不安を乗り越える共生の意味に思いを巡らせた。

第1部　ともいきがたり

（お話）作家　青木　新門さん

私が葬儀社に勤めた体験を「納棺夫日記」にまとめ出版したのは1993年3月です。その年、俳優の本木雅弘君から「自分の写真集に、本の文章を引用したい」と依頼がありました。

それは、内臓を全部うじに食べられた孤独死の二遺体を扱った時に「うじが光って見えた」という文章です。若いのに、本木君の感性はすごいと思いました。これがきっかけで映画「おくりびと」が制作され、ついにアカデミー賞の外国語映画賞を受賞しました。

納棺夫日記を書こうと思い立ったのは、法然さんの逸話に出会ったからです。殺人まで犯した大悪人の男が念仏に目覚め説法の仕方を教えてもらおうとした時、法然さんは「おまえの体験を語ればよい」と諭した。「ああそうか」と私も勇気を持って書きました。

比叡山の恵心僧都（源信）は天皇の前で仏法を説き美をもって喜び、母親に送ります。母親は「後の世を渡す橋と思ひにに世渡る僧なる悲しき」誠の求道者となり給の瞬間を知る人と、そうでない人の違いは大きい。

典型例が、神戸の酒鬼薔薇聖斗事件です。殺人の動機について14歳の少年は「大事なおばあちゃんがいなり、死とは何かを知りたくなった。カエルやネコを殺したが、人間を殺さないと分からないと思った」と供述しています。

九州の寺で経験した話ですが、檀家総代が危篤になり、親族を集めた。亡くなった後、親族の14歳の少年が感想文を書いた。「おじいちゃんが亡くなろうとするところにいて悲しく涙が止まらなかった。いろんなことを教わったけど本当の命の尊さを教えてくれた気がしてなりません。遺体の顔は、いつまでも僕を見守ることを約束してくれた笑顔でした。」

少年2人のどこが違うか。九州の少年は、死の現場にいた。おじいちゃんの笑顔の話も、死後のデスマスクを見たのでは書けない。神戸の少年は祖母が病院で死んだ時に家に残された。そばにいないから頭で死を考え人を殺してみたくなった。死の現場が大事、いま死が伝達されていません。

「人は必ず死ぬんですから命のバトンタッチがあるんです。死から目をそむけている人は見損なうかもしれませんが、目と目で交わす一瞬の命のバトンタッチがあるのです…。」私の詩の一節です。

死ぬ瞬間の人の目は必ずありがとう と言っているのがわかる。源信が「後の世を渡す橋になる」と言ったことが大事。この世を生きることだけを考えているのが、今日の社会ではないでしょうか。

あおき・しんもん　1937年、富山県生まれ。早稲田大中退後、文学を志す。93年、葬祭会社勤務の体験記「納棺夫日記」を出版。これを原案にした映画「おくりびと」が81回アカデミー賞外国語映画賞を受賞した。

命のバトンタッチ大切

ともいき　法然上人の教えにも表れた「いのちの本質」にかかわる解釈。現在ある自分の「いのち」は、祖先から受け継ぎ、子や孫に引き継がれる尊い存在だ。「いのち」には、過去から未来へ連なる、いくつもの「いのち」が宿っている。「いのち」は有形、無形を問わず、あらゆるモノの中にも存在する。そうした無限で多様な「いのち」とともにあることが「ともいき」である一とする。

第2部　ともいき談義「往生～死をめぐる共生」

往生の意味や、地獄・極楽について話し合う出席者たち

◇出席者　京都大学大学院教授　山極　寿一さん　◇コメンテーター　青木　新門さん
語り部　平野　啓子さん　◇コーディネーター
浄土宗僧侶　中野　正明さん　佛教大学教授　高田　公理さん

やまぎわ・じゅいち　1952年、東京生まれ。京都大理学部卒。アフリカ各地でゴリラの生態を研究。人類に特有な社会の由来を探っている。国際霊長類学会会長。著書に「家族の起源」「人類進化論」ほか。

ひらの・けいこ　静岡県沼津市出身。早稲田大卒。NHKの「ニュースおはよう日本」のキャスターや、大河ドラマの語りなどを務める。名作、名文を暗唱する「語り芸術家」として、国内外で公演している。

なかの・しょうみょう　1954年、福井県生まれ。大正大大学院博士課程単位取得。華頂短大学長。学校法人佛教教育学園副理事長。文学博士。専門は日本仏教史。著書に「増上寺史」「知恩院史料集」ほか。

コーディネーター　高田公理さん

高田　平野さん、朗読ありがとうございました。蜘蛛の糸が書かれたのは1918年。都市化が進み、人々の気持ちに個人主義が芽生えた時代です。芥川は個人主義の登場を、主人公のカンダタに託したのかなと思います。さて、本日のテーマ「死をめぐる共生」とは、どういうことなのか、死は未知の体験だから、人は不安になる。山極さん、ゴリラにも死の不安はあるのですか。

山極　動物は死の瞬間まで平気で生きていますよ。青木さんの納棺夫日記で印象に残ったのは、正岡子規の言葉を引用したくだりです。「悟りとは平気で死ねることと思っていたが間違いだった。いつでも平気で生きていられるのが悟りだ」。考えると、これは動物の世界ですね。動物は一度、自分の集団を離れると、二度と戻らない。人間は遍歴しても元の集団との関係を一生、持ち続けて死ぬ。つまり死者に助けられて生きる。死んだ人も子孫のために影響を及ぼし続ける。だから人間は死後の世界を考えるのでしょう。

中野　人はみな、死後の世界が恐ろしい。誰もが迎えるその一線をどう越えるかを、浄土教は教えている。共生の言葉に、その一大事を受け止めるヒントがあると思います。

平野　「蜘蛛の糸」は、私にとって思い出深い作品です。カンダタが自分一人だけ助かりたい、と思った瞬間に糸が切れる。当たり前だと思ってきました。最近、朗読を聞いた多くの子どもが「なぜ、一人だけ助かってはいけないの」と聞くのです。答えに窮します。欲におぼれず生きた者だけが行ける「極楽」の言葉がよく伝わっていない。極楽、往生という考えは、語り継ぐべき大事なテーマです。

青木　いま、人々は個の命しか考えなくなった。つながりある永遠の命というとらえ方をしない。人間だけが生と死を分けて考える。今日ほど、丸ごと認める力が失われている社会はないと思う。共生とは、お互い丸ごと認め合う世界です。

ある小学3年生が作った詩に驚きました。「トンボを捕まえて家に帰った。台所に行ったら、お母さんがゴキブリをたたいて殺していた。同じ昆虫なのに。このお母さんはヒューマニズム、つまり人間中心主義です。仏教は悲智性で、分けて考える発想はない。仕切りも国境もありません。

山極　人間は定住生活をして、自分たちの生活範囲を自分たちの手で作り替えた。入って来るものは、害虫・害獣と言って追い出す。一緒に生きられるものは、家畜のように都合よく作り替え、生活空間を自分たちの手で管理して向こうの世界との間に境界を設けた。それが死生観に現れ、向う側とこっち側、という考えが出てきたのです。

中野　人間は一人では生きていない。だから、往生するときは、一人ではなく多くの人々とともに、往生できたらよいと考える。それが動物との違いでしょうね。

山極　青木さんの本では、光の話にも感動しました。

青木　私の言う光は、影が出来ない光です。生と死が交差する瞬間でその時にしか見えない。人間だけ、そこがかけ離れている。死の瞬間に立ち会うことが、命のバトンタッチになるんです。

平野　どこかから放たれる光があっても、受け取る側に見る力がないうちは感じないのかも。竹取物語に人の毛穴さえ見えるほど辺りが明るくなる場面があります。そういう光を見た人が、この世に必ずいたのだと思います。

山極　人間は視覚世界に生きている。類人猿も「これは一緒で見たこと」が本当なんです。何が本当かというと、相手の顔です。顔は非常に重要。人間は、微細に相手の表情から内面を視る能力が発達している。自分が信頼してほしいと思う相手が信じさせてくれる笑みを浮かべただけで生きてけける。

青木　マザー・テレサが、この日と際に「こんなに豊かできれいな国なのに、みんな何でこんな暗い顔をしているのか」と聞いたそうです。老いと死の恐怖感で生きている人が圧倒的に多い。行き先が分からないから明日が不安になる。往生にとっては大事なことで、行き先がイメージできた時に安心できる。

山極　行き先をイメージするうえで、地獄はない方がよいのですか。

青木　地獄、極楽は中国仏教からきた考え方で方便だと想う。地獄は例え話。それが行き先だと思うからおかしくなる。

中野　法然上人も「地獄に行ったら大変だから極楽浄土を願い念仏せよ」とは教えていない。往生は個人の一大事。死後の世界をどうイメージできるか、に尽きます。

高田　冒頭で「悟りとは平気で生きている状態だ」という子規の言葉が紹介されました。子規が結核で亡くなる前の1年は、壮絶な痛みとの戦いだった。そんな状態を生き、やがて死んでいくことの全体が、ある種の光芒を放つようになった。他力とはそういうことかなと思います。自然（じねん）、つまり「どうしてもそうなってしまう状態」になることが、往生の中身ではないかとも感じました。

死者に助けられて生きる　山極さん

極楽の意味伝わってない　平野さん

死後への一線どう越える　中野さん

「自然」状態が往生の中身　高田さん

浄土宗21世紀劈頭宣言

愚者の自覚を
家庭にみ仏の光を
社会に慈しみを
世界に共生を

平成23年に、宗祖法然上人の800年大遠忌を迎えます
法然上人の心とともに、新しい「共生文化」を創造しましょう

法然共生

宗祖法然上人800年大遠忌

総本山 知恩院（京　都）
大本山 増上寺（東　京）
大本山 金戒光明寺（京　都）
大本山 知恩寺（京　都）
大本山 清浄華院（京　都）
大本山 善導寺（久留米）
大本山 光明寺（鎌　倉）
大本山 善光寺大本願（長　野）

浄土宗 Jodo Shu
Buddhist Denomination
http://www.jodo.or.jp

大遠忌記念事業トピックス

絵本『コール マイネーム 大丈夫、そばにいるよ』が、刊行されました。

絵本作家・葉祥明さんが紡ぎ出した『阿弥陀経』のメッセージ

大絶賛発売中

無限のいのちを説く『阿弥陀経』の世界。悲しみの淵から抜け出せないとき生きる意味を考えているとき この本を手にとって開いてください。

絵と詩・葉祥明／発行・浄土宗
編集協力：角川学芸出版

法然共生イメージソング
さだまさし「いのちの理由」
（作詩・作曲　さだまさし）
シングルCDを浄土宗独占販売

アルバム「美しい朝」から待望のシングルカット。
「法然上人のこころ」と「大切ないのち」を、
多くの皆様に感じていただければ幸いです。

※「コール マイネーム」「いのちの理由」は下記浄土宗出版で販売中。
なお「コール マイネーム」は全国の書店でもお買い求めいただけます
（帯のデザインが若干異なります）。

浄土宗出版　東京都港区芝公園4－7－4
TEL：03-3436-3700　FAX：03-3436-3356
浄土宗出版HP：http://press.jodo.or.jp/